勇者のみ（1951）

ONLY THE VALIANT

メディア 映画
ジャンル 西部劇
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 105分
初公開日 1952/05/01
公開情報 ＷＢ

【解説】

恋敵の同僚を自分の身代わりに危険な任務に就かせたと誤解された騎兵隊大尉が、汚名返上に、隊の荒くれや出来損ない兵で構成したゲリラを率い、援軍到来までアパッチを引きつけ、最後に撃破するという、低予算西部劇や戦争映画の一分野と言っていい“砦攻防戦”ものの佳作。何しろ部下の全員が何らかの形で彼に恨みを持っていて、大尉ランス（ペック）はいつ殺されてもおかしくないという環境。彼はそうした悪意を逆にアパッチとの戦いに差し向けていく。自らの手を汚さずに厄介者の始末をつけるーーという風にも見えなくはないが、大体どの兵も心のわだかまりが解けた所で潔く死んで、ランスは悪者にならずにすむが、何か複雑なさっぱりしない性格で、こういう人物を演じるとペックはすこぶる感じが出る。Ｗ・ボンドはいつものヴィクター・マクラグレンもどきで可もなく不可もなし。それよりは鬚もじゃの“死の騎兵”を名乗る軍曹Ｒ・チェイニーのアクの強さが魅力的。

【クレジット】

監督	ゴードン・ダグラス	Gordon Douglas
製作	ウィリアム・キャグニー	William Cagney
脚本	エドマンド・Ｈ・ノース	Edmund H. North
	ハリー・ブラウン	Harry Brown
音楽	フランツ・ワックスマン	Franz Waxman
出演	グレゴリー・ペック	Gregory Peck
	バーバラ・ペイトン	Barbara Payton
	ウォード・ボンド	Ward Bond
	ギグ・ヤング	Gig Young
	ロン・チェイニー・Ｊｒ	Lon Chaney Jr.
	マイケル・アンサラ	Michael Ansara
	ネヴィル・ブランド	Neville Brand
	ジェフ・コーリイ	Jeff Corey

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.